

平成30年8月24日（金）

全国農業高等学校長協会東北支部総会並びに研究協議会

8月16日、17日に全国農業高等学校長協会東北支部総会並びに研究協議会が、福島市で開催されました。その挨拶文です。

このたび、全国の農業高校の校長先生方にご参加いただきまして、このような会を催すことができましたことは福島県高等学校長協会といたしまして誠に喜びに堪えません。この機会に、様々な出会いとご教授をいただくことができ、たとえばGAP取得のための方策や今後の展開などこれからの農業教育の進展のためにも次なる一步を歩むことができますことは、この上ない喜びであります。このような会の開催を心からお祝い申し上げます。

私は国語教師であります。実家が兼業農家でありましたことから、幼少の時から鶏を飼育する係となりまして、毎日のえさやりと卵の採取とともに鶏卵を出荷する手伝いとか、市場に母と出向いて一個10円ほどの相場がいくらか高いときの喜びとかを体感して参りました。出身のいわきはネギの産地で、4キロ東500円からを20束以上毎日出荷したりする手伝いもしてきたところ。一束100円にもならず落ち込んだり、800円を超えて売れるので喜んだりしたのを覚えています。その一部が私たちの大学生活の学費にまかなわれたことは疑いなく、今更ながらありがたいと感じております。

宮沢賢治が1921年（大正10年）に農学校の教師となり、大正15年3月31日に退職するまで、多彩な農業教育を展開したことはご存じのとおりですが、その根底に、農民の生活への重いと、ままならない天候への恐れと農業技術への祈りといのちへの尊敬を作品に込めてきたところあります。

彼の作品の一つに、「農民芸術概論綱要」がありますので紹介します。

おれたちはみな 農民である。ずいぶん忙しく仕事もつらい。

もっと明るく生き生きと生活する道を見つけない。

われらの古い師父達の中にはそういう人も応々あった。

近代科学の実証と求道者達の実験とわれらの直感の一致に於いて論じたい。

世界が全体幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない。

おお友達よ 一緒に正しい力を合わせ、われらのすべての田園とわれらのすべての生活を一つの大きな第4次元の芸術に作り上げようではないか。

イーハトーブの地で、目指した農民の生活についての思想は、今にも通ずる大きなエネルギーに満ちています。そんな東北のエネルギーを感じつつ、次なる世代の農業教育を語り合っただけならばありがたいと存じます。そのような出会いが子供達の未来に繋がればこの上ない喜びです。

最後に、各県の高等学校長協会と校長先生方並びに生徒達のますますの発展を心より念じたいとしましてお祝いの言葉とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。